

(別紙様式 県立学校用)

平成22年度指定 新しい職を活用した研究モデル校 研究報告書

学 校 名 高知海洋高等学校

学校長名 森 誠 一



1 研究テーマ

(1) 副校長のテーマ

- ① 専門高校における副校長の位置づけと役割
- ② 教員を経験していない校長の下での副校長の役割

(2) 主幹教諭のテーマ

- ① 校内組織の横断的な連携における主幹教諭の役割

2 研究内容

(1) 新しい職を設置した組織体制の効果的な運営方法

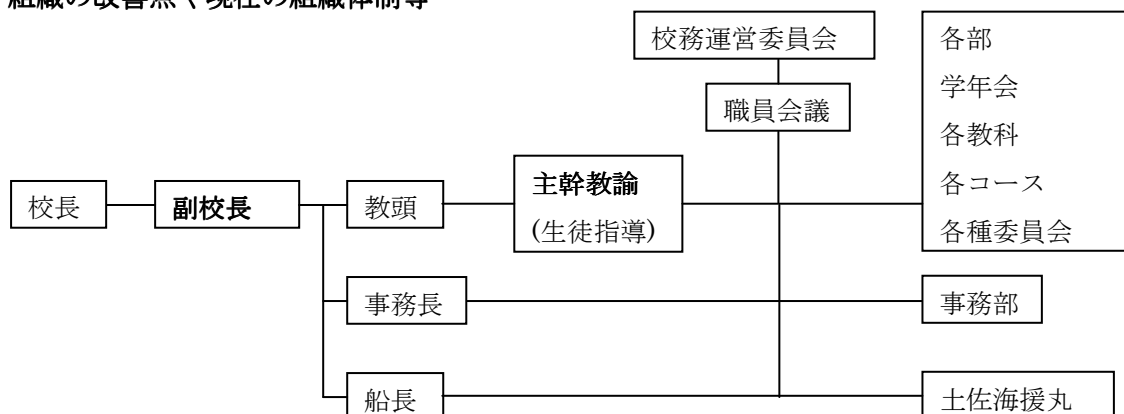
(2) 教育課題に対して、学校全体で取り組む仕組みづくり

【具体的な研究内容】『校長の学校経営方針を具現化するための組織体制の在り方』

『生徒指導上の諸課題の解決に向けた組織的な対応の在り方』

3 新しい職の配置による組織体制

組織の改善点や現在の組織体制等



4 新しい職の活用状況

(1) 副校長の担当職務、校内での位置づけ及び活用状況等

① 専門高校における副校長の役割

専門教育の活性化や多様化した生徒の進路実現に向け、意見調整を積極的に行い、効果的で具体的な校内体制の在り方を検討した。

② 教員を経験していない校長の下での役割

学校長の事務委任項目を専決し、校長の事務負担を減らし、職務に専念できる体制を整えた。

(2) 主幹教諭の担当職務、校内での位置づけ及び活用状況等

① 生徒指導主事（部長）を兼ねた。

② 生徒の規範意識の醸成をはじめ、問題行動の対応（未然防止、謹慎者の対策）を体系化した。

③ 生徒指導に対する教職員の意識改革に取り組んだ。

④ 関係機関（警察・育成センター等）との連携を充実させた。

5 具体的な取組	
(1) 副校長としての取組 校長の学校経営方針を具現化するための組織体制の在り方を検討し、以下に取り組んだ。 ① ・ 3 学科体制から 1 学科体制になり、教員が 10 数名減少した。専門高校としての学校経営のマネジメント体制の見直しを進めた。 ② 新しい学習指導要領の先取りやキャリア支援を見据え、教育課程を抜本的に再編成した。 ③ 高知県立学校事務処理規程第 6 条に掲げる事務委任項目の専決を行った。 ④ 文部科学省の研究指定事業（実習船教育の工夫改善）を踏まえ、実習船の運営体制を見直した。 (2) 主幹教諭としての取組 “授業ができる環境づくり”をスローガンに、生徒指導の在り方について、以下に取り組んだ。 ① ・ “事後の生徒指導”から“事前の生徒支援”への考えを踏まえた取組を推進した。 特に、生徒の問題行動に対して人権教育部と連携し、“気づき”の指導を行った。 ② 平成 22 年度「高校交通教育の実践」モデル校の指定を受け、交通安全指導の充実に取り組んだ。 ③ 生徒指導部の教員及び生徒会の生徒をよくまとめ、生徒会関係行事の活性化に努めた。	
6 研究の成果	
(1) 副校長としての成果 ① 学校長の事務委任項目を専決し、校長の事務負担を減らし、職務に専念できる体制が執れたので、役割分担を整理し、課題に対する複数の眼でのチェックや仕事の効率化・迅速化が図れた。 ② 教育課程を再編したことで、学年ごとの系統的な進路指導（キャリア支援）体制が緒に就いた。学校改革を進める学校、特に専門高校では副校長（専門教科）の立ち位置は重要であった。 (2) 主幹教諭としての成果 ① 生徒指導が対処療法にならないよう、絶えず各分掌特に教育相談係との連携をとりながら、日々の実践に繋げ、生徒支援の在り方の教職員の意識改革が進んだ。 ② 生徒会の活性化に努め、行事遂行型から企画実行型の生徒会に変容させた。 ③ モデル校としての研究とともに授業軽減時間を効果的に活用して取り組めた。 現状の生徒は、集団での指導が難しいなど、個々に対応しなければならないケースが圧倒的に多かったが、きめ細かい指導を継続することができた。	
7 課題の分析と考察	
(1) 副校長の課題の分析と考察 ① 管理職、特に教頭の仕事量が増えている現状で、学校の明確な課題に対処し、企画の作成や推進体制を整え、自律した学校経営を行うには、副校長の配置が最も有効で、成果が期待できる。 ② 教員を経験していない校長の下で事務委任項目の専決を行ったが、特色ある学校づくりを推進するには、事務長と連携した予算の管理・運営がますます必要となる。（特に、会計書類を決裁するうえで会計規則の理解が欠かせないが、そのためには、会計研修やイントラ整備が必要と思われる。） (2) 主幹教諭の課題の分析と考察 ① 学校長の経営方針を推進するには校内組織の横断的な連携が大切である。主幹教諭を配置して効率的な学校運営を行うためには、校内体制の中での役割と確かな位置づけが最も重要であった。 ② 本校では生徒指導の組織的な体制を整えるため、生徒指導主事に主幹教諭を充て、大きな成果があったが、今後、生徒指導の経験豊富な主幹教諭の継続的な配置が必要である。	

※ 各欄は、必要に応じて広げてください。本年度の成果の検証、次年度の取組の方向を確認する。